

単元名 めざせ 楽き名人(1)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 楽器の音色と演奏の仕方との関わりに気付くとともに、「指くぐり」「指またぎ」の双方や、
 範奏や伴奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能を身に付けることができる。
 (2) 旋律、拍やその流れ、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、
 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し
 どのように演奏するかについて思いをもつことができる。
 (3) 鍵盤楽器の演奏に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組
 むとする。

標準的な展開例

02070105_001

【教材名】 かつこう (器楽) ドレミのトンネル (器楽) (P. 26～P. 27)

【準備等】 範奏CD、鍵盤ハーモニカ

| 学 習 活 動 | 留 意 事 項 など |
|---|---|
| <p>1 「かつこう」を歌詞や階名で歌い、鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 範奏を聴き、学習課題をつかむ。 ★ ドレミで 歌ってから えんそう しよう</p> <p>○ 「かつこう」を歌詞唱・階名唱で歌う。</p> <p>○ 「かつこう」を鍵盤ハーモニカで演奏する。</p> <p>○ 離れた音の予備運動をする。</p> <p>○ 「かつこう」を合奏する。 ・ 段ごとに演奏してつなげる。 ・ 全員で一緒に演奏する。</p> <p>2 「ドレミのトンネル」を歌詞や階名で歌い、鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 範奏CDを聴く。 ★ 「ゆびくぐり」や「ゆびまたぎ」で えんそう しよう ○ 階名唱する。</p> <p>○ 鍵盤ハーモニカで、上行型（1～3小節目）を繰り返し吹く。</p> | <p>・ 「カッコー」（1・2小節）と「ほうら」（9・10小節）のリズムの違いに気付かせる。</p> <p>・ 1・2小節は3拍目の休符に留意し、鳴き声をイメージして「コー」の音が長くならないようにする。</p> <p>・ 鍵盤楽器の演奏のためには、階名唱が重要なので、定着するまで繰り返し階名唱をさせる</p> <p>・ 4小節ごとに区切り、段階的に繰り返し階名唱する。</p> <p>・ 5・6小節と7・8小節は同じなので、2小節のまとまりを感じて歌わせる。</p> <p>・ 歌詞唱しているときから、休符を意識して歌わせるとよい。</p> <p>【共通事項】 拍</p> <p>・ 階名唱しながら鍵盤を押さえたり、音程をつけた「トゥ」で歌いながら鍵盤を押さえたりする。</p> <p>・ 次に息を入れて鍵盤の音を鳴らして演奏させる。</p> <p>・ ソ→ミ（5→3）、ファ→レ（4→2）のように、音が少し離れているところを取り出して繰り返し吹かせる。</p> <p>・ いろいろな高さのソ→ミ、ファ→レを見つけて吹かせるとよい。</p> <p>【共通事項】 音階</p> <p>【評】 鍵盤楽器を演奏する活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 1段目（1～4小節）、3段目（9～12小節）は「ソミ」の違いを意識させる。</p> <p>・ 2段目（5～8小節）は2小節ずつ同じ動きであることを意識させる。</p> <p>【評】 旋律、拍やその流れ、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、曲想を生かした表現を工夫する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 範奏CDを聴きながら歌詞唱をする。</p> <p>・ 鍵盤楽器で演奏するために、階名唱はとても重要であるので、何度も繰り返し歌わせる。</p> <p>・ 階名（ドレミファソラシド）を思い出し、リズムに注意して階名で歌わせる。次に歌詞で歌わせる。</p> <p>・ ドレミ（1 2 3）とファソラシド（1 2 3 4 5）の2つのポジションに指を置くことを確認する。</p> <p>・ ミ→ファ（3→1）の「指くぐり」のみを繰り返し確認させる。</p> <p>・ 下のドから順番に演奏させる。最初は、リズム通りでなくてもよい。</p> <p>・ 階名唱しながら鍵盤を押さえたり、音程をつ</p> |

○鍵盤ハーモニカで、下行型（５～７小節目）を繰り返し吹く。

○全員で合奏する。

けた「トゥ」で歌いながら鍵盤を押さえたりさせてから、鍵盤ハーモニカの音を出して繰り返し吹かせるとよい。

・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。

・ファ→ミ（１～３）の「指またぎ」のみを取り出し、繰り返し吹かせる。

・上のドから順番に演奏させる。最初はリズム通りでなくてもよい。

【評】「指くぐり」「指またぎ」を使ったり、リズム譜などを見たりして演奏する活動を通して「技能」を評価する。

・初めはゆっくりと、慣れてきたらだんだん速く演奏させる。

・１段目だけ、２段目だけなど分けて演奏させ合奏する部分をだんだん増やしていく。

・「指くぐり」「指またぎ」が苦手な児童には教科書P.27の写真を参考にして、取り出して繰り返し確認させる。

・指の動きに注意し、旋律を滑らかに演奏することを意識させる。

【共通事項】速度

【評】楽器の音色と演奏の仕方とを関わらせて演奏する活動を通して「知識」を評価する。

【 備 考 】